

風薫る 5月は、たちまちのうちに過ぎ去り、梅雨入りで始まった6月水無月です。昔は旧暦だったので今の7月が水無月だったのでしょね。暦が変わってすぐに台風2号が沖縄の襲来、今年の台風はどうなるのか気掛かりです。さて、ゆんたく・なんくるの子供たちとそのスタッフ一同は元気に過ごしています。夏に向けて布団や毛布を替えたり、洗濯したりと交代でシーツを干したりしています（全員が布団やシーツを干すとベランダが容量オーバーになるので）交代で干しています。今のところまだ湿気が少ないのでいいのですが、これからのジメジメは嫌ですね。食中毒にも気をつけないと。子供たちの健康を損なうことがないように日々の衛生状態にも気を配っていきます。「〇〇苦手や！」「△△食べられへん」などと言っていたAちゃんもしっかり食べるようになってきました。高校生になったBちゃんは自分でおにぎりや卵焼きを作って学校のランチに持って行っています。それぞれに「お姉さん」になってきました。しっかり食べて体力つけてこれからの梅雨の季節を元気に乗り切りましょう！♡♡♡

今月の「キッチンゆんたく」では、ハーモニカの演奏をお楽しみください。ハーモニカの演奏をしてくださる方は山田加代さんです。メインは懐かしのメロディーのようですが、童謡はもちろん広いレパートリーをお持ちそうです。楽しみですね！

ハーモニカと聞くと私たちの世代（団塊の世代の前後）には懐かしい音と風景がひろがりますね。私もハーモニカを持っていました。机の引き出しに入れてたまにプースカと吹いていました。上手な子は滑らかにきれいなメロディーを演奏していましたね。何故か男の子に上手な子が多かったように思います。ハーモニカの歴史を調べてみました。

1821年、ドイツのベルリンでオルガン職人の息子、クリス・ブッシュマンという当時16歳の少年が発明したものとされています。うちの子供たちは保育所で「鍵盤ハーモニカ」を使っていました。「ピアノ」とも呼んでいました。鍵盤ハーモニカはピアノのような鍵盤が並んでいますが、ハーモニカと同じく金属のフリーリードを呼吸で鳴らす鍵盤楽器だそうです。ハーモニカは日本ではかって、口風琴（くちふうきん）と言われてたそうです。ハーモニカが日本に伝えられたのは1880年代で日本では1917年に最初のハーモニカが作られました。小学校の授業に取り入れられてから需要が伸びたのですが、1970年代後半から使われなくなって需要が減ってしまったということです。いまやハーモニカをつくっている会社は世界で6つぐらいしかないそうです。



ゆんたくホームのゆんたくさびら

(おしゃべりしましょう)

進学・進級で新しい環境になりましたが、6月に入り、新しい生活にもだいぶ慣れてきた様子です。みんなほとんど体調を崩すことなく、日々元気に登校しています！学校での出来事や友人とのことなどお互いに話して、夕食時はとくににぎやかな雰囲気です(^_^)

雨が続き気分も晴れにくい季節になりましたね…それでも日々楽しいことを見つけて、それぞれ充実した生活を送ってほしいと思います！！



なんくるはなんくるないさ～

(なんとかなるよ！)

5月のGWをそれぞれ満喫していた子どもたちですが、またいつも通りの学校・バイトの日常に戻りました。梅雨に入り、雨が降る日も増えてきましたね。子どもたちは、1日中外で動き回っているので、いざ洗濯しようとした日が雨…ということも多く大変です。

Aちゃんはアルバイトでくたくたになって帰ってくることも多いです。じめじめとした季節になり、気温差も大きいので体調を崩さないよう過ごしたいですね！！



らいげつ
来月のキッチンゆんたくのご案内
2023年

7月21日（第3水曜日）開催

予定メニュー

- ・カレーライス
- ・サラダ（パスタ）



おしらせ

毎月第三水曜に開催中の、
キッチンゆんたくをお手伝いして下さる
ボランティアの方を募集しています！！
興味がある方はゆんたくへ連絡を！！
(TEL : 075-383-0926)



6月のキッチンゆんたく

メニュー♪

- ・カレーライス
- ・サラダ（パスタ）

夕方5時～なくなり次第終了

利用料：無料(受付に募金箱を設置しています)

会食にご協力ください！

お菓子などは会食の会場に設置しています！

感染対策に留意して会食とテイクアウト

(テイクアウト限定30食)の両方で開催します！

なくなり次第終了です。早めに来てね♪

※※お車での来場はできません※※

徒歩・自転車でお越しください

Thankful

近隣の会社K様より金一封を頂きました。また、京都フードバンク様、京都フードセンター様からはお米や食品、お菓子を頂きました。
皆様、ありがとうございました！

Thanks☆



ネズミのすもう

昔、昔の話 おじいさんは すもうをとっているネズミを見つめました。

「でんかしょう、でんかしょう」太ったネズミがやせっぽちのネズミをポンポン投げ飛ばしています。やせたほうは おじいさんちのネズミでした。太ったネズミは、長者さんのところのネズミです。「うちが貧乏なせいで勝てないんだ」おじいさんは おばあさんに相談しました。「あのままでは、かわいそうだ」「それならたくさん食べさせてやりましょう」二人は大事なもち米でお餅を作っていました。

次の日「でんかしょう、でんかしょう」おじいさんちのネズミは元気いっぱい。太ったネズミをかるがる投げ飛ばしました。「どうして急に強くなったの？」「お餅をうんと食べたのさ」「いいなあ、おいらのうちは金持ちだけどケチなんだ。お餅なんて食べたことないよ」「それならうちにおいでよ」それを聞いたおじいさんとおばあさんはにっこり。「今夜もお餅をつきましょう」おじいさんはありったけのもち米で餅を作りました。おばあさんは赤い布でまわしを縫ってあげました。「おいしいね」

「かっこいいね」とネズミたちは大喜び「これはお礼だよ」と太ったネズミは小判をたくさん置いて帰りました。それから毎日ネズミたちは元気にすもうをとっています。おじいさんとおばあさんは、ネズミがくれた小判で幸せに暮らしました。